

9-5

明るく健康で豊かな生き生き生活の支援

朝の体操の取り組みから ホーム全体の相互援助関係

QOLの向上

相互援助活動

しせいとくべつようごろうじん
至誠特別養護老人ホーム

看護師 村上 茂子（むらかみ しげこ）

作業療法士 柴 元之（しば もとゆき）

立川市錦町6-28-15

生活相談員 佐藤 徹郎（さとう てつろう）

TEL : 042-527-0061

E-mail : nishiki-tokuyo@shisei.or.jp

FAX : 042-527-0032

URL : <http://www.shisei.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

至誠ホームは高齢者総合福祉施設として、昭和26年に養護老人ホームを開設以来半世紀以上にわたり立川の地において高齢者福祉を担い、その時代や地域のニーズに応じた事業を先駆的に展開してきました。至誠特別養護老人ホームは昭和52年に開設し、現在150名の高齢者が4フロアで生活されております。

〈取り組んだ課題〉

- 利用者の重度化が進み、生活を意欲的に送る事や前向きに何かに取り組むということが、個人のみだけでは難しい状況になっていました。
- 「つまらないから家に帰りたい」そんな利用者からの言葉をきっかけに、朝の体操（外気浴）という取り組みを活性化させていこうと、同じ目的に向かって多くのセクションが協力しました。

〈具体的な取り組み〉

- 朝食後に一息ついてから、準備をして広場まで行くという一連の動きについて、介助が必要な方に対しての必要人員の確保。
- 利用者の「健康でいたい」「外の空気を吸いたい」という声を代弁して、ホーム全体へ呼びかける啓発活動。
- 職員だけではなくボランティアへ外に出る際の送迎援助、または広場の散歩援助の呼びかけ。
- 援助の手が足りず、認知症の方が一人ぼっちになって不安を覚えたり、転倒するなどの事故がないような定期的な事故予防の話し合い。
- この活動に参加している利用者のケアプランへのリンク。
- 参加実績表の作成とそれによるモニタリング。
- 家族との意見交換

〈活動の成果と評価〉

- 地域の人々や家族からの評価。
- 利用者間の関係性の広がりや相互援助作用。ボランティアをする方も嬉しさや喜びを感じるようになりました。
- 身体機能の維持と回復ができた。
- 利用者も職員も明るく前向きになれました。
- 健康増進に繋がりました。インフルエンザ・感染症の予防ができた。
- 今回の積極的なホーム全体の取り組みによって、朝の体操参加者は1日4~5名から1日25名ほどにまでアップしました。

〈今後の課題〉

- 送迎援助の手が足りないために、認知症の方が広場で転倒したり、広場を離れて他の場所へ行くなどのことがないよう援助の人員を増やすこと。
- 重度化した利用者でも時には外へ出て、太陽が眩しいとか緑が濃くなったとか、ボランティアへ微笑む表情とか、そうした表情の変化があるということを利用者へ伝え、もっと職員側も嬉しさや喜びを利用者とともに実感できるような体制を整備していきたい。
- カンファレンスや日々の面会を通じて家族に利用者の変化を伝え、家族とも一緒に喜んでいただけるコミュニケーションの充実や関係性の構築を図っていきたい。